

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

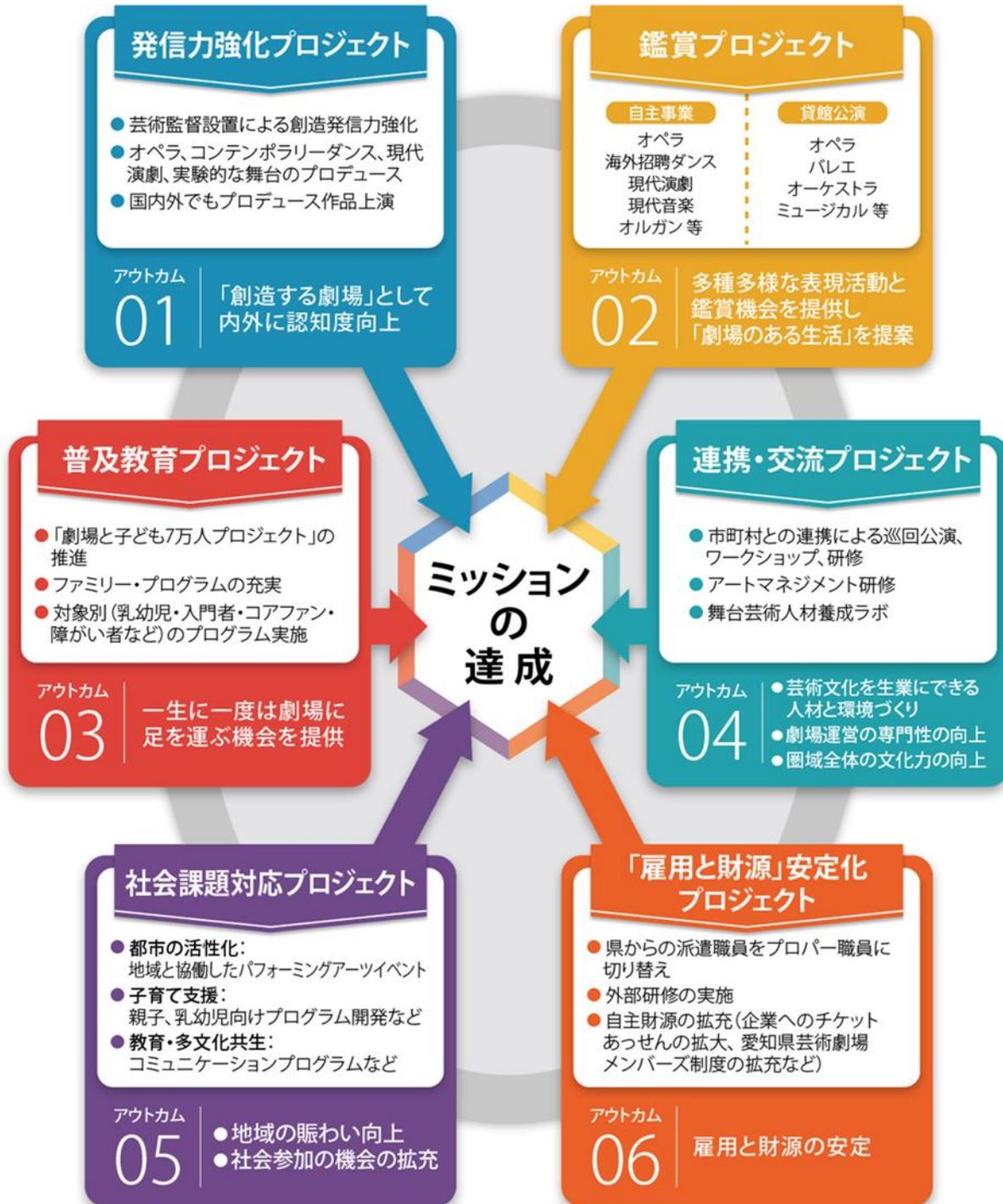
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人愛知県文化振興事業団	
施 設 名	愛知県芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	劇場による地域文化向上プロジェクト	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	57,114	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オルガン・レクチャーコンサート～オルガンの名曲でたどる J.S. バッハの生涯	2019. 5. 11	□出演者： オルガン・お話：椎名雄一郎 □曲目： J.S. バッハ：トッカータとフーガニ短調 BWV565 他	目標値	1,212
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1,202
2	ローザス『A love supreme』	2019. 5. 17-18	□出演者・スタッフ等： 演出・振付：アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル 振付：サラバ・サンチェス 出演：カンパニー・ローザス □演目： 『A love supreme』	目標値	900
		名古屋市芸術創造センター		実績値	769
3	カーゲル「アコースティカ」	2019. 6. 1	□出演者： 足立智美（作曲家/パフォーマー）他 □曲目： マウリシオ・カーゲル：ACUSUTICA 足立智美：アコースティカですか（世界初演）	目標値	165
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	105
4	ネザーランド・ダンス・シアター（NDT）公演	2019. 6. 28-29	□出演者： ネザーランド・ダンス・シアターダンサー35名 □演目： 「Shoot the Moon」、「Wake up Blind」 「The Statement」、「Singulière Odyssée」	目標値	1,229
		愛知県芸術劇場 大ホール		実績値	2,409
5	オルガン・スペシャルコンサート～ピエール・ダミアノー・ペレッティ	2019. 10. 9	□出演者： オルガン：ピエール・ダミアノー・ペレッティ ハープ：田中敦子 □曲目： メンデル：ハープ協奏曲 op. 4-6, HWV294 より アンダンテ・アレグロ 他	目標値	1,199
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	346
6	アルディッティ弦楽四重奏団＋小尻健太	2019. 12. 1	□出演者： 音楽演奏：アルディッティ弦楽四重奏団 振付・ダンス・演出：小尻健太 □曲目： 細川俊夫：新曲（世界初演） 西村朗：弦楽四重奏第6番〈朱雀〉 ヴォルフガング・リーム： 弦楽四重奏曲第3番〈胸裡〉、Geste zu Vedova	目標値	165
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	177
7	クリスマスはオルガンだ！2019	2019. 12. 21	□出演者： オルガニスト：近藤岳 カウンターテナー：中嶋俊晴 □曲目： 聖歌：「久しく待ちにし」他	目標値	1,083
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	2,016
8	NHK 交響楽団定期演奏会（愛知県芸術劇場シリーズ）	2020. 1. 26	□出演者： 指揮：ファビオ・ルイーヂ ソプラノ：クリスティーン・オポライス 管弦楽：NHK交響楽団 □曲目： ウェーバー：歌劇『オイリアンテ』序曲 R. シュトラウス：4つの最後の歌、 交響詩「英雄の生涯」作品4	目標値	1,340
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1,564
9	ON VIEW : Panorama	2020. 2. 7-9	□出演者・スタッフ等： 振付・映像：スー・ヒーリー（オーストラリア） ダンス：湯浅永麻、浅井信好（日本）、ムイ・チャック・イン、ジョゼフ・リー（香港）、ナリーナ・ウエイト、ベンジャミン・ハンコック（オーストラリア）	目標値	405
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	216

10	勅使川原三郎ダンス・コンサート【公演中止】	2020. 3. 12	□出演者・スタッフ等： 演出・振付・照明・美術・ダンス：勅使川原三郎 ダンス：佐東利穂子 ヴァイオリン演奏：庄司紗矢香 □演目： 「三つ折りの夜」	目標値	975
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	—
11	ダンス・セレクション	2019. 10. 19	□出演者・演目： 鈴木竜：『AFTER RUST』 横山彰乃 / al banshees: 『ペッピライカで雪を待つ』 渡邊尚（頭と口）×ギヨーム・マルティネ（Defracto）：『妖怪ケマメ』	目標値	284
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	114
12	サウンドパフォーマンス・プラットフォーム 2020	2020. 2. 23	□出演者： ゲストアーティスト 正直、ミニスキュル・シングス（立川貴一+吉田アミ）と大谷能生 公募アーティスト CORONA、みあいっこ、日々《変容の対象》 アンサンブル	目標値	64
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	91
13	第19回AAF戯曲賞 募集・選考	2019. 5-2020. 3	□審査員： 三浦基、鳴海康平、やなぎみわ、白神ももこ	目標値	100 作品
		愛知県芸術劇場 アールスペース A ほか		実績値	136 作品
14	愛知県芸術劇場 2019 年度舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	□プログラム： ①舞台芸術インターンシップ ②学生インターンシップ、舞台芸術お仕事ナビ ③劇場職員セミナー ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術ワークショップファシリテーター&コーディネーターセミナー	目標値	700
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	672
15	アーティスト人材養成事業	通年	□プログラム： ①合唱団養成 ②オルガニスト養成 ③振付家・ダンサー養成 ④ワークショップファシリテーター養成	目標値	263
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	180
16	愛知芸術文化センター リニューアルオープン記念 愛知県芸術劇場オープンハウス&ダンス・ワークショップ	2020. 5. 3	□プログラム： ①劇場案内ツアー ②ダンスワークショップ ③子ども劇場スタッフ体験 ④オープンハウス	目標値	1,000
		愛知県芸術劇場 大ホール		実績値	829
17	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム ワークショップ&げきじょうたんけんツアー	2019. 7-8	□プログラム： ①げきじょうたんけんツアー ②キッズ音楽ワークショップ ③赤ちゃんと踊ろう	目標値	200
		愛知県芸術劇場 大ホールほか		実績値	272
18	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム『L o o』 県内ツアー	2019. 7-8	□出演・製作：ポンテン・ピエ □県内ツアー地：県内8市町村	目標値	2,500
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	563 (+ツアー1923)
19	THE オルガン NIGHT & DAY 2019	2019. 8. 28-29	□出演者： オルガン：都築由理江(当劇場オルガニスト)	目標値	3,636
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	3,022

20	ソーシャルインクルージョンプログラム パフォーマンスワークショップ	2020.1.21-25	□講師： Oily Cart（エリー・グリフィッツ、マックス・ラインハルド、ロビン・スチュワード）他 □プログラム	目標値	210
		愛知県芸術劇場 リハーサル室ほか	1.21-24：ワークショップ&ショーイング （対象 音楽家、パフォーマー） 1.25：シンポジウム （対象 アーティストや舞台芸術・福祉・教育などの現場で活動する人等）	実績値	38
21	半田市オペラ鑑賞教室学校招待公演／愛知県芸術劇場オペラ鑑賞教室2019「レクチャー&オペラ上演」～60分でわかる！オペラのススメ	2019.6.6	□出演者・スタッフ等： 演出・構成・日本語訳：宮本益光 出演者：宮本益光、針生美智子、三枝宏次 □演目： 「奥様女中」	目標値	2,000
		半田市福祉文化会館		実績値	2,143
22	栄北まちなか展開連携事業「久屋ぐるっとアート」	2019.11.1-4	□参加団体： 愛知芸術文化センター、NHK名古屋放送局、オアシス21 他 □当劇場プログラム： 「あそびプログラム」、防災人形劇「さんびきのこぶた危機一髪！」	目標値	5,000
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	244,326
23	普及啓発事業	通年	□プログラム： ①乳幼児と保護者のためのプログラム ②入門者のためのプログラム ③より深く楽しみたいコアファンを増やすためのプログラム ④障がい者及び劇場に来づらい人のためのプログラム ⑤在住外国人のためのプログラム	目標値	500
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	537
24	バリアフリー対応	通年	□内容： ①聴覚障がい者対応： ヒアリングループの設置、手話通訳、字幕設置 ②視覚障がい者対応： 点字翻訳パンフレット、公演前説明会	目標値	—
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	—
25	多言語対応	通年	□内容： 英語、日英併記チラシ等の作成	目標値	—
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	—

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

国内有数の文化芸術施設である愛知芸術文化センターの一翼を担う県立の芸術劇場として、2018年度に採択された「劇場による地域向上プロジェクト」の6つのプロジェクトを引き続き進め、ミッション達成に向けて予定通り事業を進めた。

特に、プロジェクトの大きな目玉である芸術監督設置については、2020年度から勅使川原三郎氏が就任することとなり、2020年1月には就任記者会見を愛知と東京で行い、49団体57名が参加した。初年度となる2020年度には芸術監督就任記念シリーズとして同氏による3公演を予定しており、愛知から国内外への発信力を強化していく。また、引き続き、AAPPAC（アジア太平洋パフォーミングアーツ連盟）への参加や専任のプロデューサーたちの海外調査などにより、さらなる国際プレゼンスの向上につなげていく。

香港・オーストラリアとの国際共同製作による「ON VIEW」では愛知と横浜での公演を行い、2020年度以降香港・オーストラリアでの公演も予定され、創造・発信を進めている。加えて、アンケートでも上演の機会をのぞむ声が多かった「ローザス」、「NDT」公演等により多種多様な表現活動と鑑賞機会を提供した。さらに、プロデュース作品「ありか」については海外を含めた各地での公演を行った一方、海外招聘作品の県内ツアーを市町村劇場との連携により引き続き実施するなど、「世界への窓」として海外と地域をつなげる総合的な事業展開を行うことができた。

普及教育については、市町村劇場や教育機関との連携交流を密にし、「劇場と子ども7万人プロジェクト」を着実に推進することができ、人材養成についても、圏域全体の文化力向上に資する内容で実施することができた。

社会課題への取組みとしては、障がいのある人も楽しめるパフォーマンスづくりに向けた新たな取組みを始めたほか、行政機関とも連携した在住外国人や乳幼児と保護者向けのワークショップ、近隣地域とのアートイベントを継続実施することにより、あらゆる人々が文化芸術を楽しむことのできる環境整備に尽力した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

アートによるソーシャルインクルージョン（社会的包摂）をテーマとした新たな取組みとして、知的障害のある子ども、その家族や介助者も一緒に楽しむことができるパフォーマンスづくりに向け、イギリスの劇団「Oily Cart」を招聘し、音楽家やパフォーマーを対象としたワークショップやアウトリーチのほか、福祉・教育現場で活動する人も対象としたシンポジウムを行った。実施にあたっては、福祉系NPOや行政機関とも連携し、内容を充実させることができた。2020年度はこれを展開させ、「Oily Cart」による公演実施を予定している。

「劇場と子ども7万人プロジェクト」については、参加した市町村劇場や教育機関から良い反応を得ており、さらなる自治体等への働きかけを進めた結果、2020年度は過疎地を含めた多くの地域で実施することとなった（ただし、新型コロナウイルスの影響により全公演中止）。

2018年度から始まった近隣商業施設等との連携によるアートイベント「久屋ぐるっとアート」は2回目を迎え、参加団体数は25団体、来場者数は244,326人と前回は大きく上回り、地域の賑わいづくりに貢献した。単なる公共の文化施設から、共にまちづくりや活性化を考えていく地域の劇場として、参加団体からもその役割を期待され、劇場に対する見方の変化を感じている。「栄地区まちづくりプロジェクト」として開発が進む栄北地域の状況も鑑みながら、今後も継続して実施していく。

なお、2020年度から芸術監督に就任する勅使川原三郎氏には、2019年度、アドバイザーを委嘱し、今後の自主事業に関する意見交換を行った。これにより、2020年度以降、愛知の文化的資源を活かした作品づくりや、海外の劇場やアーティストとの連携もより具体的に検討し始めており、継続的な発信力強化が期待できる。

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

指標に掲げた数値目標の達成に向け順調に推移しており、アウトカムの発現は可能と考えている。

一例をあげると、プロデュース作品の他館での上演として、2017年度にプロデュースした演目であるレクチャー&オペラ上演「奥様女中」を学校招待公演として、県内市町村劇場にて「劇場と子ども7万人プロジェクト」の一つに位置付け行うことができた。7万人プロジェクトの推進にあたっては、市町村劇場・教育機関との連携が必須であり、当劇場主催での継続実施とともにプロジェクトに賛同する劇場数を着実に増やしていくことによって、県内の小中学生1学年に相当する7万人を劇場に招待するという大きな目標達成に向け進めていく必要があるが、あわせて、それに適した上質な演目のレパトリーを劇場として保有することも重要である。2020年度以降も、新たな作品づくりを進めるとともに、これまでの当劇場プロデュース作品について、学校招待公演も含めた再演を予定しているところである。さらに、助成対象外事業ではあるが、2016年度の新製作以降再演を重ねてきたプロデュース作品「ありか」について、国内（横浜、富山）での再演に加えて海外（フランス・パリ）での公演が実現した。今後も、国内外への発信を進めていきたい。

また、若者の来館者数として、「ファミリー・プログラム」及び「ミニセレ」シリーズのU25来場者率が向上しており、これらの事業は、未来の担い手育成に貢献することから、今後一層の充実・拡大を図っていく。

普及教育としては、乳幼児と参加できるダンス・ワークショップ、入門者がお茶を片手に舞台芸術の楽しみ方を学べる「カフェトーク」、コアファンがミニセレのダンス3作品を鑑賞して実際にレビューを書いて推敲する「鑑賞&レビュー講座」、在住外国人も演劇を通して交流できる演劇ワークショップなどのプログラムのほか、バリアフリー対応として聴覚障がい者向けのヒアリンググループ（補聴援助システム）や手話通訳の配置、視覚障がい者向けの公演前説明会開催や点字プログラム配布、多言語対応としては英語チラシの作成等を行った。今後も試行錯誤しながら継続することで、情報の蓄積や内容の整理を行い、県芸術劇場と市町村劇場との役割分担について検討していきたい。

2019年度の指標に対する達成状況は次のとおり。

※なお、この指標（数値目標）は2019年度に策定した「愛知県芸術劇場 第2次中長期計画」の検討過程で、全職員が意見を出し合いながら、一人ひとりが改めて確認することとなった。

- ①プロデュース作品の製作及び県内外での上演：7公演（指標：4公演以上）
- ②大ホール公演入場者率（ダンス・オペラ）：64.2%（指標：70%）
年3回以上来場者数：27.8%（指標：30%）
利用者満足度調査平均点：3.74（指標：3.7以上）
- ③劇場と子ども7万人プロジェクト参加者数：4,051人（指標：7万人）
U-25来場者率：34.1%（指標：30%）
- ④舞台芸術人材養成ラボ参加者数：672人（指標：年800人以上）
市町村との連携事業数：7事業（指標：6事業以上）
- ⑤栄北地区パフォーミングアーツイベント開催：年1回（指標：年1回以上）
ファミリー・プログラムの開催：1期（指標：2期）
- ⑥チケット購入団体数：17団体（指標：18団体）
愛知県芸術劇場メンバーズ会員数：11,556人（指標：20,000人）
外部研修受講者：のべ66人（指標：のべ80人）

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

各事業について、事業期間については、当初計画に基づき適切に事業を進めることができた。

事業費については、小・中規模事業については、要望時と決算時の間で 20 パーセント以上の乖離を生じた事業が複数みられた（小・中規模事業の場合、公演内容のわずかな変更や出演料の交渉、舞台スタッフの配置、広報宣伝の状況等による少額の増減であっても、事業費自体が小さいため、変更の割合として予算との乖離が大きく見えてしまう）ものの、経費が 1 千万円以上の大規模事業については、新型コロナウイルスの影響により公演中止となった 1 事業をのぞいた 4 事業全てについて、乖離を 20 パーセント以内にとどめることができた。今後は、小・中規模事業についても、できる限り実効性のある予算の積算及び管理を行っていく。

また、入場者数としては、一部伸び悩んだ事業があったもののおおむね目標値に近づけることができた。特に有料入場者が増加した事業としては、学校への働きかけにより学生団体鑑賞が実現した「NDT」公演や、前年度非常に好評であったことから 1 回から 2 回に公演数を増やした「クリスマスはオルガンだ！」公演がある。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

2019年度も、当劇場の自主事業の柱である2つのフェスティバル（「ファミリー・プログラム」、「愛知芸文フェス」）と「ミニセレ」シリーズにより特徴づけを行いながら事業を実施した。休館を伴ったセンター改修工事を経て、4月下旬から劇場の3ホールがフル稼働することとなり、様々な創造性豊かな事業展開を行った。

事業の組み立てにあたっては、劇場館長を含めた複数の専任プロデューサーが互いに議論を重ね、また、2020年度から芸術監督に就任する勅使川原氏にはアドバイザーとして、今後の企画に関する意見交換を行った。

1 プロデュース公演の国内外への展開

過去のプロデュース作品である再演として、レクチャー&オペラ上演「奥様女中」の学校招待公演、ダンスとラップを融合させた「ありか」の海外を含めた3か所での公演（本助成対象外）など、愛知から国内外への創造・発信を行うことができた。2020年度以降も、県外展開を含めた再演の予定がある。

2 共同制作・共同招聘

「ローザス」、「NDT」など1館では実施が難しい大規模な海外招聘公演や、グランドオペラ共同制作『カルメン』といった大規模な新制作オペラの上演（本助成対象外）について、国内の先進劇場と連携して行った（東京、神奈川、札幌）。さらに、国際共同製作プロジェクト「ON VIEW:Panorama」については、映像作家・振付家のスー・ヒーリー（オーストラリア）が、香港・日本・オーストラリアのダンサー・スタッフと共同で取り組んできたダンスと映像のプロジェクトの最終章として、2019年度は日本ツアー（城崎でのクリエイション、横浜、愛知での公演）を実施し新しい形での映像ライブパフォーマンスを創作した。2020年度以降、香港・オーストラリアでの公演も予定されている。このように、国内外の劇場・アーティスト等との連携による様々な企画が展開でき、今後も芸術監督のネットワーク等を活用して、一層の拡大を図っていききたい。

3 オルガン公演

日本最大級のオルガンを活用し、年4回、対象者や目的を変えて、子どもから初心者、リピーターまであらゆる方にオルガンの魅力を堪能していただけるコンサートを実施した。実施にあたっては、専属オルガニストが演奏や企画・運営に携わったほか、当オルガニストには、若手人材（オルガニスト）の養成やオルガンのメンテナンス等、全方向から当劇場のオルガンに関するサポートをしてもらう体制をとっている。引き続き、劇場とともに歩むオルガニストとして活動を継続する。

4 人材養成事業

5つのプログラムによるスタッフ人材養成と、公演事業に付随した形での稽古やワークショップ等によるアーティスト人材育成との両輪により、この地域全体での舞台芸術の振興やアーティスト活動の環境整備につなげることができた。とくに、芸術監督に就任する勅使川原氏と地元バレエ団により行われた懇談会では、本県の文化的資源である数多くのバレエダンサー達を活用した今後の事業展開を見据えることができ、彼らの資質・意識向上とこの地域のプレゼンスの向上につながっていくことが期待される。

5 普及啓発事業

①乳幼児と保護者、②入門者、③コアファン、④障がい者及び劇場に来づらい人、⑤在住外国人の5方向を対象として引き続き事業を実施した。また、社会課題対応に向けた新たな取り組みとして、知的障害のある子ども、その家族や介助者も一緒に楽しむことができるパフォーマンスづくりに向け、イギリスの劇団「Oily Cart」を招聘し、音楽家やパフォーマーを対象としたワークショップのほか、福祉・教育現場で活動する人も対象としたシンポジウムを行った。これにより、パフォーマンスの手法のみならず、国内外の先進事例の共有や課題の洗い出しができ、社会に開かれた舞台芸術公演を実施して行ける環境づくりに寄与することができた。

6 複合施設の活用

4月下旬のリニューアルオープンに合わせ、愛知芸術文化センター全体で連携し、劇場・美術館等施設全体を回遊できるよう工夫した記念イベントを実施した。劇場としては、舞台上でのダンス・ワークショップやバックステージツアー、子どもスタッフ体験等様々なプログラムを実施した。

また、「ムンク | 幽霊 | イプセン」（本助成対象外）では、愛知県美術館の収蔵作品であるムンク《イプセン「幽霊」からの一場面》と、そのモチーフとなったイプセンの戯曲「幽霊」を原作とし、美術館展示室内でのモノローグパフォーマンス及び劇場での演劇作品上演を併せて実施し、両施設を横断した作品上演が実現した。

前出の「ON VIEW:Panorama」では、劇場でのダンスと映像のパフォーマンス公演とは別に、アートのスペースにおいて映像インスタレーション作品の展示も併せて行い、複合施設にふさわしい、まさにジャンルを横断した創造性・発信性に富んだ作品づくりを行うことができた。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

愛知県は、「愛知県文化芸術振興条例」（2018年3月制定）に基づく「あいち文化振興計画2022」（2018年7月策定）で、愛知県芸術劇場を含む愛知芸術文化センターを「本県における文化芸術施策を展開する拠点施設」として位置付けた上で、愛知県文化振興事業団を指定管理者として、二度、任意指定するなど、劇場に対する県の評価は高い。

さらに、愛知県芸術劇場は、名古屋市文化振興事業団と連携協定を結んだり、県内市町村劇場との事業連携、名古屋市内の民間劇場や県外さらにはアジア太平洋地域の劇場との定期的かつ継続的な情報共有（AAPPAC）を行っている他、国内の芸術文化団体の役員を相互に務めたり、プロデュース作品「ありか」がパリ日本文化会館から公演依頼を受けるなど、国内外の拠点劇場としての強い信頼や実施事業に対する関心・評価を得ている。加えて、人材養成事業における様々なセミナーでは、「交流」を重要な要素と定め、圏域の人材や情報が双方向に交流するプラットフォームとしても機能している。

大型のオペラや海外招聘ダンス公演、様々なプログラムされたオルガンコンサート、小ホールの特徴を活かした先駆的・実験的な「ミニセレ」シリーズ、幅広い対象を対象とした普及啓発・人材養成事業など、多種多様な事業展開や仕組みやその手法は注目を集め、2019年度は全国からのべ20団体424人から、施設の見学・運営状況の視察・学術調査の受入れを依頼された。加えて、専門性の高い人材として、また、地域に貢献する人材として、研修講師や各種委員としての職員の派遣依頼が増えていることから、専門領域における評価も向上していると認められる。2018年度からは、名古屋芸術大学から半期の講座を受託し、プロデューサーらが交替で講義を実施している。

施設利用サービスにおいても、利用者のニーズを丁寧に聞き取るなどの運営面とともに、劇場の大規模改修工事後はハード面においても利用者満足度調査で高い評価を得るなど、ハードとヒューマンの連携が奏功している。

1 ハード(施設)

(1) 劇場の大規模改修工事が終了し、利用者からの施設・設備に対する満足度が向上した。

評価点：改修工事前（2016年）3.52→改修工事後（2019年）3.70 ※4段階評価・最高4点

2 ソフト(公演)

(1) プロデュース作品「ありか」がパリに招聘されるなど、国際的認知度も高まっている。

(2) オルガン公演を年4回実施し、のべ約6,500人を集約するなど、施設の特徴を活かした事業で、地域の音楽ファンの支持を得ている。

(3) AAF戯曲賞においては、応募が136作品と全19回の開催のうち最多となるなど、粘り強い活動の結果が表れている。

3 ヒューマン(人材)

ホールに偏ることなく、官学民すべての分野から派遣を依頼されている。

(1) 自治体・公立ホール・公共的団体

文化庁、公益社団法人全国公立文化施設協会、名古屋市、豊川市、公益財団法人豊田市文化振興財団、安城市、長久手市、一般財団法人岐阜市公共ホール管理財団、貝塚市、公益財団法人熊本県立劇場

(2) 学校

名古屋芸術大学、熊本大学

(3) 民間企業・団体等

ヤマハサウンドシステム株式会社、一般財団法人ゼガサミー文化芸術財団、NPO法人世界劇場会議名古屋

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

愛知県芸術劇場の事業は、愛知県が制定・策定した「愛知県文化芸術振興条例」と、「あいち文化芸術振興計画 2022」に位置づけられ、県の文化施策の重要な一翼を担っている施設として、設置者である県による劇場の持続的な支援が裏付けられている。また、2019 年度に劇場として「愛知県芸術劇場 第2次中長期計画」を策定し、本事業である「劇場による地域文化向上プロジェクト」で打ち出した内容や目標値もこの計画の中に組み入れ、より一層体系的に劇場事業を位置づけることができている。さらには、指定管理者として毎年度行っているモニタリング調査や利用者満足度調査、経営改善計画、指標の達成などについても、本プロジェクトを踏まえて作成しており、相互に関連付けている。今後も県からの支援を受けつつ積極的に事業実施に努めていきたい。

ハード面については、複数年に渡る劇場の大規模改修工事が終了し、3ホール全てがリニューアルしフル稼働できる状況となり、合わせて、改修時にパイプオルガンのオーバーホールも行い、利用者からも高評を得るなど、劇場として更なる活動を行っていくための足場を整えることができた。

また、2020 年度から世界的なダンサー・振付家・演出家である勅使川原三郎氏が劇術監督に就任することにより、同氏の知名度やネットワークを活かした国内外の劇場やアーティストとの連携も、より一層具体的に検討され始めており、当劇場の国際プレゼンスの向上と継続的な組織活動の発展が期待できる。

人事体制としては、専門性と持続性が重要となるポジションについては県派遣職員からのプロパー化を進めており、2019 年度に1人、2020 年度には2人のプロパー職員の採用募集を行った。同時に、県とのつながりも踏まえた県派遣職員の適切な配置を行い、県の文化施策の推進に寄与しつつ、劇場としての組織の強化、維持できる体制としていく。また、財団として策定した「人材育成計画」に沿って、体系的に職員研修を行っているが、Off-JTについても計画的に実施し、持続的な実施体制につなげた。

安定的な財源確保としては、企業等へのチケット団体斡旋をさらに進める他、自主事業に直接支援してもらえよう賛助会員制度を構築し、2020 年度から立ち上げていくこととするなど、地元企業等に働き掛けて、より安定的な経営戦略に結び付け、アウトカム・アウトプット発現の持続性の定着につなげていく。